

グローバル人材育成推進室 (2018年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■グローバル関連科目	イギリス研究 木原 謙一	1学期	2	2	
	アメリカ研究 アーノルド・ウェイン	2学期	2	2	
	アメリカの社会と文化 / 地域研究特講 休講	集中	2	2	
	国際関係特講I 休講	集中	2	2	
	国際関係特講II エルカン・キビリチム	集中	2	2	1
	国際経済論I (英語) 魏 芳	1学期	2	2	2
	国際経済論II (英語) 魏 芳	2学期	2	2	3
	異文化間コミュニケーション概論 (英語) 山崎 和夫	2学期	2	2	4
	文化社会学 (英語) / 比較社会文化 (英語) 休講	1学期	2	2	
	外国文献研究B (英語) 申 東愛	1学期	2	2	5
	現代国際関係法 二宮 正人	集中	2	2	
	教養演習AII (Debate) ダンカン・ウォトリイ	2学期	2	2	6
	教養特講II (グローバルワーク) 休講	2学期	2	2	
	国際経営概論 猿渡 剛	2学期	2	2	7
	Japanese Culture and Society ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	8

グローバル人材育成推進室 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■グローバル関連科目	Chinese Culture and Society 板谷 俊生	2学期	2	2	9
	English Speaking Cultures and Societies ローズマリー・リーダー	2学期	2	2	10
	Chinese Economy 白石 麻保	1学期	2	2	11
	Global Studies Seminar チョウ ピンピン	1学期	3	2	12
	企業研究 齋藤 貞之	2学期	2	2	13
	実践英語中級1・ 2(600～730) 木原 寛子	1学期	2		14
	実践英語中級1・ 2(600～730) 木原 寛子	2学期	2		15
	実践英語中級1・ 2(600～730) 足立 科子	1学期	2		16
	実践英語中級1・ 2(600～730) 足立 科子	1学期	2		17
	実践英語中級1・ 2(600～730) 足立 科子	2学期	2		18
	実践英語中級1・ 2(600～730) 足立 科子	2学期	2		19
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	1学期	2		20
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	1学期	2		21
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	2学期	2		22
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	2学期	2		23

グローバル人材育成推進室 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■グローバル関連科目	社会意識論 (英語) / 比較社会意識 (英語)	2学期	2	2	
	休講				
	教養特講I (Japan Studies)	2学期	2	2	30
	シエーン・ドイル				
	教養特講I (Japan Studies)	2学期	2	2	31
	シエーン・ドイル				
	経営学I	1学期	2	2	32
	奥山 恭英				
	経営学II	2学期	2	2	33
	山崎 勇治				
	経営戦略概論	1学期	2	2	34
	寺田 真一郎				
	Japanese Affairs	2学期	2	2	35
	フィオナ・クリーサー				
	国際政治経済概論	1学期	2	2	36
	デビット・ニール・マクレラン				
Asian International Relations	1学期	2	2	37	
李 東俊					
グループ演習 (デイバート・討論)	2学期	2	2	38	
ロドルフォ テルガド					
グループ演習 (デイバート・討論)	1学期	2	2	39	
山崎 勇治					
Global Business Seminar (中国)	2学期	3	2	40	
王 効平					
Global Business Seminar	2学期	3	2	41	
奥山 恭英					

国際関係特講II 【昼】

担当者名 エルカン・キビリチム / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This is an intensive course of international relations with a specific focus on immigration. The topic of immigration is salient because European international relations have deteriorated in recent years due to increased immigration. To give some examples, the UK decided to leave the European Union (EU), refusing the free movement regime created by the EU (European Union). Moreover, the Central and Eastern European states chose not to comply with the EU imposed refugee allocation and settlement program. Immigration is a relevant topic for Japan as well. Even though Japan has not admitted "immigrants" for a long time after the end of the Second World War, in recent years, it amended its immigration law in a way to encourage permanent settlement of low-skilled workers. Increased immigration in the future may lead to demographic, cultural, and economic changes in Japanese society. Against this background, the course has three objectives. The first is to explain to students the causes and effects of international immigration in the world. The second objective is to examine how states respond to international immigration through various policies. Here, we will study the free movement regime in the European Union and individual immigration policies of selected European states (UK, Germany, and France) and Japan. Third, we will identify the similarities and differences of immigration policies of different countries.

(到達目標)

【知識】国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。

【技能】国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

The PowerPoint slides will be given to the students.
Please read them carefully after the end of each day.
There is no reading assignment for this intensive course; you only need to be familiar with what is explained in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The Politics of Migration and Immigration in Europe (2nd edition) by Andrew Geddes and Peter Scholten (2016)
International Immigration Policy: A Theoretical and Comparative analysis by Eytan Meyers (2004)
Immigration in the 21st Century: Comparative Politics of Immigration Policy by Terri E. Givens, Rachel Navarre, and Pete Mohanty (2020)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class Schedule and Contents (the schedule is flexible and can be adjusted to students' needs and pace)
Lecture 1: Basic concepts and theories related to immigration policy
Lecture 2: Basic concepts and theories related to immigration policy (continued)
Lecture 3: Group discussion (Discussion questions will be handed out)
Lecture 4: The free movement system within the European Union
Lecture 5: The free movement system within the European Union (continued)
Lecture 6: Group discussion (Discussion questions will be handed out)
Lecture 7: Immigration policies in Britain
Lecture 8: Immigration policies in Germany
Lecture 9: Group discussion (Discussion questions will be handed out)
Lecture 10: Immigration policies in France
Lecture 11: Immigration policies in Japan
Lecture 12: Group discussion (Discussion questions will be handed out)
Lecture 13: How to write a report
Lecture 14: How to write a report (continued)
Lecture 15: Group work (brainstorming & making an outline for the final report) The report question will be announced in lecture 13.

成績評価の方法 /Assessment Method

Reflection paper (x 4) 60%, short report 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each day allocate one or two hours for review.
Writing the final report might take a week. The students will receive sufficient time to write the report.

履修上の注意 /Remarks

国際関係特講II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Immigration, international relations, Europe, Japan

国際経済論I (英語) 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

- 1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
- 2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
- 3、地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』(第2版)(新世社)
石川城太他著『国際経済学をつかむ(第2版)』(有斐閣)
石井安憲他著『入門・国際経済学』(有斐閣)
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』(有斐閣アルマ)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル(3)【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー=オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー=オリーン・モデル(2)【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー=オリーン・モデル(3)【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析(1)【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析(2)【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析(3)【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析(4)【有効保護】
- 13回 地域貿易協定(1)【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定(2)【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』(日本評論社)を参照されたい。

国際経済論I (英語) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II (英語) 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』(第2版)(新世社)
石川城太他著『国際経済学をつかむ(第2版)』(有斐閣)
石井安憲他著『入門・国際経済学』(有斐閣)
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』(有斐閣アルマ)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 不完全競争と国際貿易(1)【国内独占】
- 3回 不完全競争と国際貿易(2)【貿易の利益】
- 4回 不完全競争と国際貿易(3)【ダンピング】【価格差別化】
- 5回 不完全競争と国際貿易(4)【産業内貿易】【独占的競争市場】
- 6回 不完全競争と貿易政策(1)【輸入関税】
- 7回 不完全競争と貿易政策(2)【輸入数量割当】
- 8回 不完全競争と貿易政策(3)【外国独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易政策(4)【戦略的貿易政策】
- 10回 生産要素の国際移動(1)【海外直接投資】
- 11回 生産要素の国際移動(2)【国際労働移動】
- 12回 貿易と環境(1)【貿易政策から環境への影響】
- 13回 貿易と環境(2)【排出権取引】
- 14回 貿易と環境(3)【環境政策から貿易への影響】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

国際経済論II (英語) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

不完全競争、貿易政策、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

異文化間コミュニケーション概論 (英語) 【昼】

担当者名 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will mainly focus on the communication gaps between native speakers of English and those of Japanese. The aim of this course is to grope for the causes of these communication gaps, and to analyze them into social and cultural factors, and after participating in this course, the students are expected to be able to: (1) get the accurate knowledge about the intercultural communication through H. Hall's researches, and (2) to learn how to avoid the ethnocentric approach to the different cultures. (3) understand value systems across the world by the Hofstede's five dimensions (Hofstede:2010), and (4) utilizing these concepts, to get the pragmatic views to cope with the critical incidents between the Japanese and English speakers in the business or educational scenes, (5) describe the cultural differences in the verbal and in nonverbal communication styles through the findings by D. Tannen and A. Merabian, (6) analyze the ordinary incidents around us, i.e., TV commercials, jokes and proverbs, in terms of cultural backgrounds, (7) get the sophisticated knowledge about the culture shocks and how to cope with them, basing on the concept of K. Oberg. (8) find out the cultural issues which is crucial to the global society, and organize your ideas into an academic essay.

教科書 /Textbooks

D. R. Levine & M. B. Adleman: Beyond Language; Cross-Cultural Communication

※At the beginning of the course you will get all the materials(handouts and PPTs) relevant in the classes.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Noriko Tanaka & Spenser-Oatey : Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across Culture

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to this course
- 2回 What is Culture? What is Communication?
- 3回 Some aspects of Intercultural Communication
- 4回 Core of the culture: Value systems (Hofstede, cultural dimensions)
- 5回 Communication gaps and structural gaps of English and Japanese
- 6回 Brief survey on cultural differences and critical incidents
- 7回 High and Low Context Culture and the critical incidents
- 8回 Brief survey on research methods: interviews, statistical process
- 9回 Non-verbal communication: Proxemics(Comfortable distance)
- 10回 Non-verbal communication; Kinesics (Gestures, Eye contact etc.)
- 11回 Cultural difference observed in TV Commercials and other media
- 12回 Adaption to the different cultures (Cultural Assimilator)
- 13回 Presentations by the students (Exchange students)
- 14回 Presentations by the students (Japanese students)
- 15回 Summary of the course

成績評価の方法 /Assessment Method

Written Exam 30% Assignments (including Term paper in English) 40%
Class involvement (including Presentation) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Requirement (before taking the course): to get a general idea concerning 'culture' and 'communication' in English .
Requirement (after the course): to be able to discuss 'how sohuld be a communication style of Japanese in the 'global' society?'

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究B (英語) 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course provides an overview of global and environmental issues.

Course Objectives

- Understanding the global and environmental issues.
- Understanding the environmental policy and policy process.
- Developing academic skills on critical thinking and discussion about the issues.

(到達目標)

- 【知識】政策理論に関する知識や分析力を修得している。
- 【思考・判断】政策について多様な観点から考え、論理的に説明できる力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】政策事例に関する議論を通じ、コミュニケーション能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

J. L. Seitz and K. A. Hite (2015). Global Issues: An Introduction(5th ed.). (Wiley-Blackwell)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Lester R. Brown (2010). Plan 4.0 (W.W Norton & Company)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction
- 2: Education and human development: How schools kill creativity
- 3: Society and human relationship : The psychology of evil
- 4: Civic society and participation in building governance
- 5: Governance, media, social network system etc.
- 6: Global Issues 1: Many views on globalization
- 7: Global Issues 2: How many people are hungry? Why?
- 8: Midterm exam
- 9: Global Issues 3: Immigration and discrimination (Crash)
- 10: Global Issues 4: Wealthy and poverty
- 11: Environmental issues 1: Air pollution, energy, nuclear
- 12: Environmental issues 2: Climate change and water management
- 13: Environmental issues 3: Waste and plastic (Movie)
- 14: Presentation 1
- 15: Presentation 2 and reviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Presentation: 40% Assignments: 30% Final Paper: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

This course requires that students have to read the materials in advance and submit the assignments by the deadline. Students need to check the assignments on my website and syllabus.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Global and environmental issues, Critical thinking, Policy process, Governance

教養演習 AII (Debate) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course aims to introduce debate for students who have had no experience with it, as well as further develop debating skills for students with some prior experience with debating. The teacher and students will negotiate topics for debate. Students will be given a simple debate template and be given clear guidelines to work with it. There will plenty of opportunities for feedback and constructive criticism. Although debate can be a little frightening for newcomers, we will try to create a warm atmosphere so that all students, regardless of their level of experience or English skills, can feel comfortable participating. We will prepare between three to five debates over the term depending on the number of students in the class and the general level of debate experience among class members. Debates utilize PowerPoint slides for the opening round of each debate.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Please bring a Japanese-English dictionary to all classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions from instructor and students
- 2 回 The language and format of debate
- 3 回 Theme 1 - Family Issues. Students choose topics and start preparing the debate
- 4 回 Research and prepare debates
- 5 回 Students practice their debates with the instructor, and finalize their presentations
- 6 回 Debate presentation no. 1 - Family Issues
- 7 回 Theme 2 - University Life. Students choose topics and start preparing the debate
- 8 回 Research and prepare debates
- 9 回 Students practice their debates with the instructor
- 10 回 Debate presentation no. 2 - University Life
- 11 回 Theme 3 - Social Issues. Students choose topics and start preparing the debate
- 12 回 Research and prepare debates using PowerPoint
- 13 回 Students practice their debates with the instructor
- 14 回 Debate presentation no. 3 - Social Issues
- 15 回 Debate review and self-evaluation

成績評価の方法 /Assessment Method

Debate performance and preparation 75%
Final exam or report 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please review each class before the next class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's work together to enjoy the debates.

キーワード /Keywords

Global Standard Program, Global Education Program

国際経営概論 【昼】

担当者名 猿渡 剛 / Tsuyoshi Saruwatari / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今後の日本は、少子高齢化が進み内需が縮小していくことが確実視されています。これからの日本企業は海外市場で積極的に事業展開を行い、欧米や韓国、中国といった他国の企業と競争していく必要があります。国際経営概論では、輸出や直接投資を行う企業とその背後にある理論の学習を通じて、国際経営に対する理解を深めてもらいます。

この授業は主に2つのテーマから構成されています。第1のテーマは、グローバリゼーションの進展です。貿易・投資障壁が低下し、技術革新が進むにつれて、もはや多くの企業が一国の市場、一国での生産にとどまらずグローバル市場、グローバル生産へと歩を進めています。この事実をきちんと認識してもらいます。

第2のテーマは、グローバル企業の戦略に関する意思決定と決定に至るまでの論理です。企業が貿易を行う理由は、依然として現存する国家間の違いに求めることができます。また、輸出やライセンスには限界があるため、企業は自国での生産だけでなく直接投資を通じた海外生産を行います。本テーマではこうした経済理論を理解し、自ら説明できるようになることを目指していきます。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、テキストに代わるプリントを毎回準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川雄平・猿渡剛編著『国際ビジネス論を学ぶ』中央経済社、2020年、2,750円。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨ(ン授業内容や成績評価等についての説明)
- 2回 世界の社会・経済は本当に発展しているのか
- 3回 4つの発展段階と世界の見方
- 4回 経済成長・企業の発展と宗教・軍事
- 5回 国際企業による生産体制とロジスティクスの整備
- 6回 国際企業と貿易理論
- 7回 少子高齢化と外国人労働
- 8回 為替レートと企業戦略(1)
- 9回 為替レートと企業戦略(2)
- 10回 FTAと貿易戦略(1)
- 11回 FTAと貿易戦略(2)
- 12回 FTAと貿易戦略(3)
- 13回 メガ競争と国際企業(1)
- 14回 メガ競争と国際企業(2)
- 15回 まとめ(レポートの採点基準等についての説明)

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)毎回行う小テスト65%、(2)期末のレポート35%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には、配布資料をよく読んで内容を十分に理解できているのが、確認してください。疑問点や不明点があれば猿渡にメールで質問してください。

メールアドレス：t.saruwatari@fukuoka-u.ac.jp

履修上の注意 /Remarks

授業中に配布資料内の空欄を埋める必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語を極力排した授業を心がけますので、どうか安心して受講してください。

キーワード /Keywords

東アジア(日本、中国、韓国、ASEAN)、国際企業、海外市場、貿易、直接投資、自由貿易協定(FTA)、為替レート

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自律的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Orientation
- 2 回 Studying about Japan
- 3 回 Demographic challenges
- 4 回 Japan on the move
- 5 回 Natural Japan
- 6 回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7 回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8 回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9 回 Japanese Core Values
- 10 回 Pure Japanese
- 11 回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12 回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13 回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14 回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15 回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.

A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Chinese Culture and Society 【昼】

担当者名 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

北九州市は過去においても現在においても、日中各分野の交流の玄関口のひとつであり、将来ますますその重要性は増すであろう。そのような中で、中国の文化・社会、特に現代中国の文化・社会を理解することは非常に重要になってくる。授業では、中国の文化と社会に関する基本的な知識を多面的に学習し、その文化の多様性と社会の特質を理解するように努める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 中国現代史-文化と社会①1940年代
- 2 回 中国現代史-文化と社会②1950年代
- 3 回 中国現代史-文化と社会③1960年代
- 4 回 中国現代史-文化と社会④1970年代
- 5 回 中国の茶文化
- 6 回 仏教と共に伝来した食
- 7 回 日中食文化比較
- 8 回 京劇と歌舞伎の交流史
- 9 回 日中新劇交流史
- 10回 中国の教育
- 11回 中国の少数民族-伝統文化と現代文化
- 12回 中国の少数民族と現代社会
- 13回 中国の年中行事①
- 14回 中国の年中行事②
- 15回 干支について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・50% 学期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習し、授業内容の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国文化や社会に興味関心があれば、中国語を学習していなくても大丈夫です。

キーワード /Keywords

中国の文化・社会、中国年中行事、少数民族の文化と社会

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自律的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

教科書 /Textbooks

None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggestions to be made when necessary in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

成績評価の方法 /Assessment Method

60% group projects
40% individual projects

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Chinese Economy 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course aims to provide students the opportunity to obtain deep understanding for Chinese economy and developing economy.

教科書 /Textbooks

The materials for lecture will be distributed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 Economic growth1: GDP, Growth rate, SNA
- 3回 Economic growth 2: Investment, productivity
- 4回 Investment and economic growth
- 5回 Incentive for production: primary industry and secondary industry
- 6回 Next step of economic reform: case of China
- 7回 Changing on industrial structure: nominal value and real value
- 8回 Financial system and its reform: case of China
- 9回 Financial intermediation and its healthiness 1: distortion, SOEs, PEs,
- 10回 Financial intermediation and its healthiness 2: alternatives
- 11回 Financial intermediation and its healthiness 3: case of China about shadow banking etc.
- 12回 Regulation by Government 1: distortion
- 13回 Regulation by Government 2: efficiency
- 14回 Review
- 15回 Summary

Schedule will be variable by possible situations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Homework 40%, Examination or Report 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparation: Students will be required to read literatures and articles concerning developing and emerging economies.
Review: Using the knowledge obtained from lecture, students have to consider how logic of economics are realized in real economy.

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to have a basic level of knowledge for micro and macro economics, and keep the motivation to actively participate in schedule.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Global Studies Seminar 【昼】

担当者名 チョウ ピンピン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

「チベット高原にいる人々」が授業のテーマである。受講生は英語のテキストを読んで、内容を理解し、議論、自身の意見を述べることが求められる。

- (1) チベット高原の概要について理解を深める。
- (2) チベット高原における人々の生活について知る。
- (3) この本の著者の目から見るチベットの人々の生活について理解を深める。
- (4) 本をよんでから、私達はチベット高原の人々の生活に関して、どのように思うか考え、自分の意見を言う。
- (5) 本に書かれていない内容について講義中に説明する。

教科書 /Textbooks

Goldstein, C. M. & B. M. Cynthia 1990. 『Nomads of Western Tibet-The survival of a way of life.』 The University of California Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 河口慧海『チベット旅行記』講談社 2015年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「Our arrival in nomad country」
- 第3回 「The ChangTang and nomadic pastoralism」
- 第4回 「Nomads, lords, and estates in the traditional society」
- 第5回 「The nomadic economy and the cycle of annual migration」
- 第6回 「Pasture allocation and reallocation」
- 第7回 「horses and the hay cutting trip」
- 第8回 「Livestock in the pastoral community」
- 第9回 「Herders and daily herding」
- 第10回 「Diet」
- 第11回 「The salt trek」
- 第12回 「Hunting」
- 第13回 「The nomads become part of China:The 1959 uprising」
- 第14回 「全体議論」
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の輪読、授業中の議論などの平常点 (100%) によって評価する。
欠席が多い場合はマイナス評価となるので注意してほしい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

輪読する内容を事前に予習し、わからない単語や専門用語を調べてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業研究【昼】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

グローバル関連科目です。適用年度等はKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

企業は現代社会に生きるわれわれに決定的な意味をもつ。「企業研究」の講義の目的は、受講生の将来の生き方に決定的な影響力を与える現代企業の特徴を、理論だけでなく、具体的、実践的な側面から企業を理解する力を身につけることである。
講義では、代表的企業やその経営者の成功要因と失敗要因を、事例をもとに分析し、事業経営に必要な不可欠な経営思考とその実践力を学ぶ。受講生は単に聞くだけでなく、議論の中に参加し、企業経営のダイナミズムが体得できる理論的かつ実践的な講義にしたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 三戸浩他『企業論』(有斐閣、2004年)
- ・ 中野他編『初めて学ぶ経営学：人物との対話』(ミネルヴァ書房、2007年)

企業研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 講義概要の説明

- ・「企業研究」の授業目的とその役割
- ・講義に対する出席者(参加者)の役割
- ・年間の講義概要
- ・講義参加者の評価、採点をどうするか

第2回 企業とは何か：その伝統的理解を問う

タイトルは「企業研究」となっている。しかし、そもそも「企業」とは何を意味しているのか。だれもが分かっているようだが、そうとは限らない。あなたの常識はどうなっているのか。なぜ、「企業研究」という授業を取ったのか。そのあたりから自分の意図を明確にすることから始めよう。

このことを、欧米の「企業」を中心に考えてみたい。アダム・スミスの原点となったマンデビルの『蜂の寓話』から、その理論の根拠をとらえ直してみる。

第3回 企業を日本の二人の経営者から考える。

映画鑑賞：岩崎弥太郎と渋澤栄一

あなたの考え方は、どちらに近いか。現代経営学の潮流をも踏まえて考えなおしてみたい。

第4回 企業と文化を考える：グローバル人材育成とは何か

—企業があなたの身近な問題にどのように深くかかわっているのか？

企業の存在が、あなたの日常生活に決定的影響を与えていることを、日米の企業比較の中から明らかにする。日本での日常が、欧米では非日常であることを認識する必要がある。

第5回 日本の企業の特性を考える：日本的経営について

日本的経営は、いつから、なぜ注目されるようになったのか

- (1) 外国から捉えられるようになった日本的経営：1970年代後半
- (2) アベグレンによる「日本的経営」：三種の神器はなぜ生まれてきたのか(日本的経営の制度的特徴)

「終身雇用制」「年功賃金制」「企業別組合制」とは何か

新三種の神器：「OJT」「Off-JT」「ジョブ・ローテーション」

- (3) 日本の経営：制度的には「新規学卒一括採用制」

内実は、「所属型」対「契約型」

※ プラザ合意(1985.9.22)の歴史的意味を考える必要あり

第6回 企業に求められるCSR

企業の社会的責任が問われている。一般に企業とは収益をあげることを目的につくられた組織と考えられている。それなのに、企業はその社会的責任は何かを配慮しなければならない。

もともとCSRとは何なのか。わかったようで、わかりにくい。その出発となった1950年代からCSR論を見直し、現代のCSRの意義と限界を明らかにする。

第7回 企業のコーポレート・シチズンシップとは何か

1980年代から、企業にとって営利主義だけではなく、社会との関連でとらえたコーポレート・シチズンシップが米国を中心に問われ始めた。日本企業は世界の範を示そうと海外で日本企業のすばらしさを示そうとしたが現地では認められず。なぜなのか。

第8回 企業が、まともに運営される仕組み：コーポレート・ガバナンスを考える その1

現代企業を理解するには、コーポレート・ガバナンスが不可欠である。この理解は20世紀末に「企業研究」として注目されてきた。なぜ、この問題がキーワードになってきたかを理論的に明らかにしたい。

第9回 企業が、まともに運営される仕組み：コーポレート・ガバナンスを考える その2

果たして、コーポレート・ガバナンスは普遍的な原理、グローバルな原理なのか。日本と欧米の企業比較を通してその現況を受講生とともに議論していく。自分なりの見解を持つためには、教科書に頼らない視点が必要である。

第10回 日本の大企業を考える：トヨタと日産の企業比較

日本を代表する20世紀型の企業は、トヨタと日産である。この両企業の成り立ちからその成長過程をその創業時の比較研究から明らかにしていく。果たして、北九州を中心に出来上がった日産は、21世紀にも生き残れるのか。また、ゴーン会長の事件の真相は何だったのか。

日本の代表的企業の2社を比較しながら、授業参加者との議論を中心に語り合いたい。

第11回 ファミリービジネス(同族企業)を考える：マスコミを騒がせる同族企業

まず、ファミリービジネス(同族問題)の典型としての大家家具の動向を自分の目で検討してみることにしたい。具体例から出発することが大切である。

この同族問題では、新聞紙上でナッツ姫(韓国航空)問題、大王製紙問題(若社長)などが頻りに引用されていたのが21世紀に入っていたころである。

当時の、マスコミの報道内容を再現するとどうであったのだろうか。マスコミのポピュリズムには、自分の判断で考え直し、マスコミに流されないことが重要である。あなたはどうかんがえるであろうか。ファミリービジネスないし同族問題を考える入口として皆で考えてみようというのか今日の課題である。

第12回 ファミリービジネス(同族経営)を考える：その強みと弱みの比較研究

企業研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本企業を考える場合。伝統理論では企業の将来は大企業から中小零細企業がいかにして脱皮するが課題とされてきた。本当にそうであるのか。伝統理論による「企業論」を脱皮するには、ファミリービジネスをどうとらえるかが課題となる。ファミリービジネスを改めてとらえ直すとその本質がみえてくる。つまり、現状を踏まえた「企業論」が必要不可欠である。

第13回 企業にとってSDGsとはなにか？

企業だけでなく、NPOにとってもSDGsが不可欠であると言われている。しかし、SDGsとは一体何なのか。質がみえてくる。つまり、現状を踏まえた「企業論」が必要不可欠である。なぜ、はやっているのか。わかったようで、わかりにくいのがSDGsである。なぜ、いま国連を中心としたSDGsが叫ばれているのか。出席者の意見を総合的に解釈し、SDGsの何たるかを明らかにしたい。

第14回 AIと企業の将来

AIがブームである。企業の将来を考える場合、AIの未来を抜きには考えられない時代状況となっている。まずは、AIとは何か、から説いてみたい。AIの言語はどうなっているのか。さらにはシンギュラリティの到来が、人間社会を大転換するとなえられている。企業の存続はありうるのか、テクノロジーの進展と企業の存在理由を受講者と共に議論を深めたい。

第15回 結び：企業のリーダーに求められる能力・資質とは

まとめではないが、企業のリーダーに求められる能力、資質を検討する。従来の企業研究で語られてきた内容と、現在議論されている内容とを比較検討することによって、自分なりの哲学、思想を、企業研究をとおしてみにつけていただきたい。

最終回 期末テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績40%、小テスト・議論への参加度60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから『日本経済新聞』をよみ、現在、どのような企業の問題が話題になっているかを勉強しておく、授業理解が非常に高まる。

履修上の注意 /Remarks

特別な前提は設けない。しかし、履修するからには、単なる暗記を中心にする必要はない。「企業研究」は、動いている現状を理解することにある。動きつつある現実の企業を動的にとらえる能力を身につけることを大切にしたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は、その内容を暗記するのでは殆んど役には立たない。授業を聞き、教員と語り議論する過程で、自らの思考力、判断力、構想力を身につけることが肝要と考えている。

キーワード /Keywords

利潤動機と奉仕動機、顧客創造、コーポレート・シチズンシップ、コーポレート・ガバナンス、同族企業、SDGs、AIと企業経営

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 /Instructor 木原 寛子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

TOEICの模試問題をテキストに用いながら、ビジネスの現場で役立つ実践的な英語力を養成する。授業の到達目標はTOEICの単なるスコアアップではなく、英語の4技能を伸ばし、ビジネスの基本用語(英語、日本語、知識)の学習、ビジネスレターの書き方、通訳翻訳の基礎的な技術の習得をめざす。大まかな目安として1学期は基礎力養成、2学期は1学期の学習事項をもとに発展、定着させていくことを目標とする。

教科書 /Textbooks

宮野智晴 入江 泉
スコアが上がるTOEIC L&R テスト本番模試600問
改訂版 新形式問題対応
旺文社 2100円+税
*授業では1学期に第1回模試、2学期に第2回模試を使用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業概要の説明 英語で自己紹介・人と知り合う、基礎力テスト 等
- 2回 会社紹介+TOEIC演習
- 3回 数+TOEIC演習
- 4回 電話の表現(1)【定型表現】+TOEIC演習
- 5回 電話の表現(2)【実践練習】+TOEIC演習
- 6回 スケジュール(1)【定型表現】+TOEIC演習
- 7回 スケジュール(2)【実践練習】+TOEIC演習
- 8回 道案内+TOEIC演習
- 9回 グラフ、データ TOEIC演習
- 10回 機材の使い方+TOEIC演習
- 11回 商品説明 +TOEIC演習
- 12回 仕事の指示+TOEIC演習
- 13回 会議 +TOEIC演習
- 14回 プレゼンテーション+TOEIC演習
- 15回 まとめ+TOEIC演習

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の課題と授業内容の復習を行うこと (学習時間の目安は課題60分、復習60分)

履修上の注意 /Remarks

少人数のクラスのため積極的な参加が求められます。課題やアクティビティをこなしていくやる気があり、授業への出席、本授業の事前事後学習に費やせる時間が取れるかどうかを熟考の上、受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、仕事で英語が必要となった時に慌てないでいようように学生時代にできる準備はしておきましょう。語学習得は積み重ねと繰り返しの練習が大切です。意欲溢れる学生さんの受講をお待ちしています。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 /Instructor 木原 寛子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

TOEICの模試問題をテキストに用いながら、ビジネスの現場で役立つ実践的な英語力を養成する。授業の到達目標はTOEICの単なるスコアアップではなく、英語の4技能を伸ばし、ビジネスの基本用語(英語、日本語、知識)の学習、ビジネスレターの書き方、通訳翻訳の基礎的な技術の習得をめざす。大まかな目安として1学期は基礎力養成、2学期は1学期の学習事項をもとに発展、定着させていくことを目標とする。

教科書 /Textbooks

宮野智晴 入江 泉
スコアが上がるTOEIC L&R テスト本番模試600問
改訂版 新形式問題対応
旺文社 2100円+税
*授業では1学期に第1回模試、2学期に第2回模試を使用

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業概要の説明 英語で自己紹介・人と知り合う、基礎力テスト 等
- 2回 会社紹介+TOEIC演習
- 3回 数+TOEIC演習
- 4回 電話の表現(1)【定型表現】+TOEIC演習
- 5回 電話の表現(2)【実践練習】+TOEIC演習
- 6回 スケジュール(1)【定型表現】+TOEIC演習
- 7回 スケジュール(2)【実践練習】+TOEIC演習
- 8回 道案内+TOEIC演習
- 9回 グラフ、データ TOEIC演習
- 10回 機材の使い方+TOEIC演習
- 11回 商品説明+TOEIC演習
- 12回 仕事の指示+TOEIC演習
- 13回 会議+TOEIC演習
- 14回 プレゼンテーション+TOEIC演習
- 15回 まとめ+TOEIC演習

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の課題と授業内容の復習を行うこと (学習時間の目安は課題60分、復習60分)

履修上の注意 /Remarks

少人数のクラスのため積極的な参加が求められます。課題やアクティビティをこなしていくやる気があり、授業への出席、本授業の事前事後学習に費やせる時間が取れるかどうかを熟考の上、受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、仕事で英語が必要となった時に慌てないでいようように学生時代にできる準備はしておきましょう。語学習得は積み重ねと繰り返しの練習が大切です。意欲溢れる学生さんの受講をお待ちしています。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

クラス目標のひとつはTOEICスコアアップです。校内TOEICテスト日程に合わせてテキストを進めていきます。TOEIC以外にはスピーキング練習も実施します。ただ「話す」だけでなく、リスニング、リーディングと合わせたスピーキングの練習も取り入れ、受講生が短時間で考えをまとめて「発話」することができるようになることを目指します。教材とする公式問題集には2回分の試験問題が収められていますので、1学期、2学期に1回分ずつ使います。その他の教材は配布します。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC Listening & Reading問題集 6
ISBN 9784906033584
国際ビジ ネスコミュニケ - ション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【第1回～10回】校内TOEIC実施日程を目安に問題集を進めます。
リスニング：毎回ウォームアップとしてパート2～4の練習問題に取り組み、仕上げとして公式問題集を使います。
文法・語彙：文法に関してはまずクラスで基本項目を確認し、その後は基本的に課題ベース(自宅学習)とします。提出された課題は講師が添削します。語彙もリーディングセクションの頻出語彙問題を宿題とし、講師が添削します。
リーディング：特に重点を置くパートです。毎回クラスで時間を計りながら演習し、グループワークも取り入れます。
スピーキング：TOEICリスニングパートに類似した形式のアクティビティ等

【第11回～15回】スピーキングを中心に行います。以下の内容を予定しています。
-リーディング/リスニングと合わせたスピーキングのペアまたはグループワーク
-DVD教材等を使った日英通訳、ナレーション、描写など
-自分の意見を述べる練習

成績評価の方法 /Assessment Method

N/A

実践英語中級1・2(600～730) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

クラス目標のひとつはTOEICスコアアップです。校内TOEICテスト日程に合わせてテキストを進めていきます。TOEIC以外にはスピーキング練習も実施します。ただ「話す」だけでなく、リスニング、リーディングと合わせたスピーキングの練習も取り入れ、受講生が短時間で考えをまとめて「発話」することができるようになることを目指します。教材とする公式問題集には2回分の試験問題が収められていますので、1学期、2学期に1回分ずつ使います。その他の教材は配布します。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC Listening & Reading問題集 6
ISBN 9784906033584
国際ビジ ネスコミュニケ - ション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【第1回～10回】校内TOEIC実施日程を目安に問題集を進めます。
リスニング：毎回ウォームアップとしてパート2～4の練習問題に取り組み、仕上げとして公式問題集を使います。
文法・語彙：文法に関してはまずクラスで基本項目を確認し、その後は基本的に課題ベース(自宅学習)とします。提出された課題は講師が添削します。語彙もリーディングセクションの頻出語彙問題を宿題とし、講師が添削します。
リーディング：特に重点を置くパートです。毎回クラスで時間を計りながら演習し、グループワークも取り入れます。
スピーキング：TOEICリスニングパートに類似した形式のアクティビティ等

【第11回～15回】スピーキングを中心に行います。以下の内容を予定しています。
-リーディング/リスニングと合わせたスピーキングのペアまたはグループワーク
-DVD教材等を使った日英通訳、ナレーション、描写など
-自分の意見を述べる練習

成績評価の方法 /Assessment Method

N/A

実践英語中級1・2(600～730) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 /Instructor 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

クラス目標のひとつはTOEICスコアアップです。校内TOEICテスト日程に合わせてテキストを進めていきます。TOEIC以外にはスピーキング練習も実施します。ただ「話す」だけでなく、リスニング、リーディングと合わせたスピーキングの練習も取り入れ、受講生が短時間で考えをまとめて「発話」することができるようになることを目指します。教材とする公式問題集には2回分の試験問題が収められていますので、1学期、2学期に1回分ずつ使います。その他の教材は配布します。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC Listening & Reading問題集 6
ISBN 9784906033584
国際ビジ ネスコミュニケ - ション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【第1回～10回】校内TOEIC実施日程を目安に問題集を進めます。
リスニング：毎回ウォームアップとしてパート2～4の練習問題に取り組み、仕上げとして公式問題集を使います。
文法・語彙：文法に関してはまずクラスで基本項目を確認し、その後は基本的に課題ベース(自宅学習)とします。提出された課題は講師が添削します。語彙もリーディングセクションの頻出語彙問題を宿題とし、講師が添削します。
リーディング：特に重点を置くパートです。毎回クラスで時間を計りながら演習し、グループワークも取り入れます。
スピーキング：TOEICリスニングパートに類似した形式のアクティビティ等

【第11回～15回】スピーキングを中心に行います。以下の内容を予定しています。
-リーディング/リスニングと合わせたスピーキングのペアまたはグループワーク
-DVD教材等を使った日英通訳、ナレーション、描写など
-自分の意見を述べる練習

成績評価の方法 /Assessment Method

N/A

実践英語中級1・2(600～730) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 /Instructor 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

クラス目標のひとつはTOEICスコアアップです。校内TOEICテスト日程に合わせてテキストを進めていきます。TOEIC以外にはスピーキング練習も実施します。ただ「話す」だけでなく、リスニング、リーディングと合わせたスピーキングの練習も取り入れ、受講生が短時間で考えをまとめて「発話」することができるようになることを目指します。教材とする公式問題集には2回分の試験問題が収められていますので、1学期、2学期に1回分ずつ使います。その他の教材は配布します。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC Listening & Reading問題集 6
ISBN 9784906033584
国際ビジ ネスコミュニケ - ション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【第1回～10回】校内TOEIC実施日程を目安に問題集を進めます。
リスニング：毎回ウォームアップとしてパート2～4の練習問題に取り組み、仕上げとして公式問題集を使います。
文法・語彙：文法に関してはまずクラスで基本項目を確認し、その後は基本的に課題ベース(自宅学習)とします。提出された課題は講師が添削します。語彙もリーディングセクションの頻出語彙問題を宿題とし、講師が添削します。
リーディング：特に重点を置くパートです。毎回クラスで時間を計りながら演習し、グループワークも取り入れます。
スピーキング：TOEICリスニングパートに類似した形式のアクティビティ等

【第11回～15回】スピーキングを中心に行います。以下の内容を予定しています。
-リーディング/リスニングと合わせたスピーキングのペアまたはグループワーク
-DVD教材等を使った日英通訳、ナレーション、描写など
-自分の意見を述べる練習

成績評価の方法 /Assessment Method

N/A

実践英語中級1・2(600～730) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- スピーキング中心の実践力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。
- TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および自分に合った訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
- ・ Q&Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
- テーマの例 (変更の可能性あり)
1. Advantages and disadvantages of studying abroad
 2. Human will be replaced by AI in labor market
 3. workation is an ideal working style.
 4. Striking culture shock you have experienced.
- etc.

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習必須。スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ、関連用語準備。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップだけに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

英語通訳者として、英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

スピーキング リスニング TOEIC 通訳

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

1. スピーキング中心の実践力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。
2. TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および自分に合った訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
- ・ Q & Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
- テーマの例 (変更の可能性あり)
1. Advantages and disadvantages of studying abroad
 2. Human will be replaced by AI in labor market
 3. workation is an ideal working style.
 4. Striking culture shock you have experienced.
- etc.

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習必須。スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ、関連用語準備。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップだけに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

英語通訳者として、英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

スピーキング リスニング TOEIC 通訳

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

1. スピーキング中心の実践力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。
2. TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および自分に合った訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
- ・ Q & Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
- テーマの例 (変更の可能性あり)
1. Advantages and disadvantages of studying abroad
 2. Human will be replaced by AI in labor market
 3. workation is an ideal working style.
 4. Striking culture shock you have experienced.
- etc.

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習必須。スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ、関連用語準備。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップだけに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

英語通訳者として、英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

スピーキング リスニング TOEIC 通訳

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- スピーキング中心の実践力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。
- TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および自分に合った訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
- ・ Q & Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
- テーマの例 (変更の可能性あり)
1. Advantages and disadvantages of studying abroad
 2. Human will be replaced by AI in labor market
 3. workation is an ideal working style.
 4. Striking culture shock you have experienced.
- etc.

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習必須。スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ、関連用語準備。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップだけに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

英語通訳者として、英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

スピーキング リスニング TOEIC 通訳

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

世界を舞台に英語を使って働く様々な業種を知り将来の進路決定に役立てる。受信能力だけでなく発信能力も含めた英語の総合能力を伸ばす。国際ビジネスに必要な一般常識及び背景知識を培う。

教科書 /Textbooks

English Career Paths to Success 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英字新聞 (インターネット上も含む) 経済面

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	Introduction	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
2回	小テスト	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
3回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
4回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
5回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
6回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
7回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
8回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
9回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
10回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
11回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
12回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
13回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
14回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
15回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	1学期の総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回範囲を指定して小テストを行いますのでしっかり予習すること。毎授業の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予復習をしっかりと行うことを求めます。授業にはテキスト、電子辞書、語彙ノート (各自が受講中に作成していくノート) とルーズリーフ式ノート (課題提出用) を必携すること。課題は期限内に提出すること。様々な英文に慣れるために日ごろからインターネットのニュースや英字新聞に目を通す習慣を付けましょう。

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代社会で起こっている様々な出来事に目を向け、それぞれの出来事に対して自分の意見をまとめ、それを効果的に発表する力を磨く。また、発表されたスピーチに対する感想や意見を述べる訓練も合わせて行う。4方向からの英語の総合能力を伸ばす。国際社会で生きるのに必要な一般常識及び背景知識を培う。

教科書 /Textbooks

Meet the World 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英字新聞 (インターネット上も含む)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 回	Introduction	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
2 回	小テスト	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
3 回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
4 回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
5 回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
6 回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
7 回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
8 回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
9 回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
10 回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
11 回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
12 回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
13 回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
14 回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
15 回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	1学期の総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回範囲を指定して小テストを行いますのでしっかり予習すること。毎授業の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生は予習復習をしっかりと行うことを求めます。授業にはテキスト、電子辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)とルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は期限内に提出すること。様々な英文に慣れるために日頃からインターネット上のニュースや英字新聞に目を通す習慣をつけましょう。

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

世界を舞台に英語を使って働く様々な業種を知り将来の進路決定に役立てる。受信能力だけでなく発信能力も含めた英語の総合能力を伸ばす。国際ビジネスに必要な一般常識及び背景知識を培う。

教科書 /Textbooks

English Career Paths to Success 成美堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

英字新聞(インターネット上を含む) 経済面

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	Introduction	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
2回	小テスト	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
3回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
4回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
5回	小テスト	Unit 10	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
6回	小テスト	Unit 10	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
7回	小テスト	Unit 11	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
8回	小テスト	Unit 11	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
9回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
10回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
11回	小テスト	Unit 13	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表
12回	小テスト	Unit 13	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
13回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
14回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
15回	小テスト	Unit 15	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	2学期の総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回範囲を指定して小テストを行いますのでしっかり予習すること。毎授業の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予習復習をしっかり行うことを求めます。授業にはテキスト、電子辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)とルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は期限内に提出すること。様々は英文に慣れるためにインターネット上のニュースや英字新聞に目を通す習慣を付けましょう。テキストは通年で使用しますが、2学期からの受講も問題ありません。

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代社会で起こっている様々な出来事に目を向け、それぞれの出来事に対して自分の意見をまとめ、それを効果的に発表する力を磨く。また、発表されたスピーチに対する感想や意見を述べる訓練も合わせて行う。4方向からの英語の総合能力を伸ばす。国際社会で生きるのに必要な一般常識及び背景知識を培う。

教科書 /Textbooks

Meet the World 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

英字新聞 (インターネット上も含む)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	Introduction	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
2回	小テスト	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
3回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
4回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
5回	小テスト	Unit 10	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
6回	小テスト	Unit 10	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
7回	小テスト	Unit 11	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
8回	小テスト	Unit 11	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
9回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
10回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
11回	小テスト	Unit 13	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
12回	小テスト	Unit 13	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
13回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech課題
14回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	Speech発表 & 質疑応答
15回	小テスト	Unit 15	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	2学期の総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回範囲を指定して小テストを行いますのでしっかり予習すること。毎授業の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予習復習をしっかり行うことを求めます。授業にはテキスト、電子辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)とルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は期限内に提出すること。様々な英文に慣れるために日ごろからインターネット上のニュースや英字新聞に目を通す習慣を付けましょう。

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 太田 茉莉子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

実社会で通用する英語力の養成を目指す。
グローバルな社会問題（その外延も広く含む）から選択したトピックに関するListening と Reading で Input した後、
同トピックについて Two-Way or Group Discussion、又は Essay Writing を行い Output 強化を図る。
英語実践力到達に有効である逐次通訳トレーニング及びウィスパー通訳トレーニングを導入する。

教科書 /Textbooks

配布教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
グローバルな社会問題からのトピック1：初見 Listening(英→日)–Note-Takingスキルをトレーニング
2. グローバルな社会問題からのトピック1：Reading(英→日)–Slash-Reading & CU Reading
3. グローバルな社会問題からのトピック1：Essay Writing
4. 逐次通訳実技 (Reception Address 於歓迎パーティ) 日→英
5. 逐次通訳実技 (Reception Address 於歓迎パーティ) 日→英
6. グローバルな社会問題からのトピック2：初見 Reading(英→日)–Paraphrasing スキルをトレーニング
7. グローバルな社会問題からのトピック2：Listening(英→日)–Retention スキルをトレーニング
8. グローバルな社会問題からのトピック2：Two-Way Discussion or Group Discussion
9. 逐次通訳実技 (Courtesy Call Speech 於表敬訪問) 日→英
10. 初見逐次通訳実技 (Press Conference Speech 於記者会見) 英→日
11. グローバルな社会問題からのトピック3：初見 Listening(英→日)–Anticipationスキルをトレーニング
12. グローバルな社会問題からのトピック3：Reading(英→日)–Skimmingスキルをトレーニング
13. グローバルな社会問題からのトピック3：Presentation
14. ウィスパリング通訳実技 (Commemoration Ceremony Speech 於オープニング式典) 日→英
15. ウィスパリング通訳実技 (Commemoration Ceremony Speech 於オープニング式典) 英→日

* 内容は授業の進捗状況に応じて前後することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のアサインメントに、指定された範囲の予習と授業内容の復習が含まれているので、これらを丁寧に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 太田 茉莉子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

実社会で通用する英語力の養成を目指す。
グローバルな社会問題（その外延も広く含む）から選択したトピックに関するListening と Reading で Input した後、
同トピックについて Two-Way or Group Discussion、又は Essay Writing を行い Output 強化を図る。
英語実践力到達に有効である逐次通訳トレーニング及びウィスパー通訳トレーニングを導入する。

教科書 /Textbooks

配布教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
グローバルな社会問題からのトピック1：初見 Listening(英→日)–Note-Takingスキルをトレーニング
2. グローバルな社会問題からのトピック1：Reading(英→日)–Slash-Reading & CU Reading
3. グローバルな社会問題からのトピック1：Essay Writing
4. 逐次通訳実技 (Reception Address 於歓迎パーティ) 日→英
5. 逐次通訳実技 (Reception Address 於歓迎パーティ) 日→英
6. グローバルな社会問題からのトピック2：初見 Reading(英→日)–Paraphrasing スキルをトレーニング
7. グローバルな社会問題からのトピック2：Listening(英→日)–Retention スキルをトレーニング
8. グローバルな社会問題からのトピック2：Two-Way Discussion or Group Discussion
9. 逐次通訳実技 (Courtesy Call Speech 於表敬訪問) 日→英
10. 初見逐次通訳実技 (Press Conference Speech 於記者会見) 英→日
11. グローバルな社会問題からのトピック3：初見 Listening(英→日)–Anticipationスキルをトレーニング
12. グローバルな社会問題からのトピック3：Reading(英→日)–Skimmingスキルをトレーニング
13. グローバルな社会問題からのトピック3：Presentation
14. ウィスパリング通訳実技 (Commemoration Ceremony Speech 於オープニング式典) 日→英
15. ウィスパリング通訳実技 (Commemoration Ceremony Speech 於オープニング式典) 英→日

* 内容は授業の進捗状況に応じて前後することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のアサインメントに、指定された範囲の予習と授業内容の復習が含まれているので、これらを丁寧に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I (Japan Studies) 【夜】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Students will be introduced to different topics about Japanese society and culture each week. Students will be expected to give and share their opinions with their classmates each week. By the end of the course students should have increased their knowledge about Japan and be able to express their own opinions on the topics introduced during the course.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Food "washoku"
Week 3: Festivals
Week 4: Sport and Leisure
Week 5: Crime
Week 6: Crime
Week 7: Politics
Week 8: Mid-term exam
Week 9: Gender
Week 10: Education
Week 11: Ethnicity
Week 12: Anime
Week 13: Manga
Week 14: Disability
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Discussion based work 40%
Mid-term Presentation 30%
Final Presentation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should pre-read any required readings before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講I (Japan Studies) 【夜】

担当者名 シェーン・ドイル / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

Students will be introduced to different topics about Japanese society and culture each week. Students will be expected to give and share their opinions with their classmates each week. By the end of the course students should have increased their knowledge about Japan and be able to express their own opinions on the topics introduced during the course.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Food "washoku"
Week 3: Festivals
Week 4: Sport and Leisure
Week 5: Crime
Week 6: Crime
Week 7: Politics
Week 8: Mid-term exam
Week 9: Gender
Week 10: Education
Week 11: Ethnicity
Week 12: Anime
Week 13: Manga
Week 14: Disability
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Discussion based work 40%
Mid-term Presentation 30%
Final Presentation 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should pre-read any required readings before coming to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学I【夜】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、現代企業経営を取り巻く経済環境を理解するために経済学の初歩的な内容と視点を理解することにある。経済学と経営学は理系における理学と工学の關係に類似しており、経済学の基礎的内容の理解は、複雑さを極め変化のスピードの速い現代社会・経済環境の中での経営を考える礎となる。本授業では経済学的な社会の見方や世界的な経済情勢を俯瞰する視点から、今後の経済・経営環境を考察するための枠組みを紹介し、国際社会における社会経済的な動態を理解するためのより深い学習への扉を開くことを目指す。

教科書 /Textbooks

The Economy, The CORE Project. (<https://www.core-econ.org/project/core-the-economy/>)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Arthur O'Sullivan and Steven M. Sheffrin, (1998) Economics: principles and tools. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ : Prentice Hall.
- N. Gregory Mankiw, (2001) Principles of economics. 2nd ed. Fort Worth, TX : Harcourt College Publishers.
- Joseph E. Stiglitz and Carl E. Walsh, (2002) Economics. 3rd ed. New York, NY: W.W. Norton.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1st Week: Introduction
- 2nd Week: The capitalist revolution 1
- 3rd Week: The capitalist revolution 2
- 4th Week: Technology, Population, and Growth 1
- 5th Week: Technology, Population, and Growth 2
- 6th Week: Scarcity, Work, and Choice 1
- 7th Week: Scarcity, Work, and Choice 2
- 8th Week: Quiz #1
- 9th Week: Social Interactions 1
- 10th Week: Social Interactions 2
- 11th Week: Property and Power: Mutual Gains and Conflict 1
- 12th Week: Property and Power: Mutual Gains and Conflict 2
- 13th Week: The Firm: Owners, Managers, and Employees 1
- 14th Week: The Firm: Owners, Managers, and Employees 2
- 15th Week: Quiz #2

成績評価の方法 /Assessment Method

Contribution to class discussion 20%
Weekly assignments 40%
Quizzes 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は週一回の割合で講義・討論(ディスカッション)の形態で行われる。毎週の各授業に割り当てられたテキストブックの内容(Readings)を必ず授業前に読了し、自らが考える重要な点と質問点を整理しておく。授業後は、授業内容や討論内容を整理し理解を深めることが前提となる。

本授業では毎週の課題提出により履修生の理解の進捗度を把握する。

履修上の注意 /Remarks

本授業の講義は概ね日本語で行われる予定であるが、専門用語等はテキストブックにある英語のままのものを使う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営学なのに経済学？と思われるかもしれませんが、企業経営や企業活動は経済活動の一部です。企業内で何がどのように行われているかも企業で働く上で大切なことですが、俯瞰的かつ原理的な視点で経済活動を理解できないと時流を正しく捉えられなくなり、企業における経営判断が難しくなります。社会科学的な視点を学ぶという点でも、経済学の基礎を理解することは大切なことです。

キーワード /Keywords

ECON101 for non-econ students

経営学II 【夜】

担当者名 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○	○			

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

GEPの学生が一番関心を持っていることはなにか。それは卒業後の進路問題であろう。社会人となって働くということは避けておれない。それにもかかわらず会社のことをよくわからないままに社会人になった人は多いのではなかろうか。会社とはなにか。日本的経営とは何か、男女の格差問題とはなにか。辞めなくなったとき考えるべきこととは何かなど、現実的な問題に迫ってほしいと思います。そこから見えてくるもの。これらを毎日の新聞の記事と関連させながら考えていこうではありませんか！

教科書 /Textbooks

池上 彰『会社のこと、よくわからないまま社会人なった人へ』（海竜社、1500円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

宇田川勝＋中村青志『マテリアル日本経営史 - 江戸期から現在まで』（有斐閣、2012年）
『図解丸わかり時事用語』（ニュース・リテラシー研究所）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介と講義の方針
- 2回 会社で一番偉いのはだれだれか？
- 3回 取締役会とはどんなものか？
- 4回 アメリカと日本、経営トップにどのような違いがあるか？
- 5回 日本的な経営とはどのような経営なのか？
- 6回 成果主義は成果を上げたのか？
- 7回 優れた経営者とは、どんな人か？
- 8回 就職とはどういうことか？
- 9回 男女の雇用格差は本当になくなったのか？
- 10回 雇用形態はいろいろある？
- 11回 今後間違いなく発展する会社を見極める方法はあるのか？
- 12回 辞めなくなったとき考えるべきことは？
- 13回 「会社で働く」ということはどういう事か？
- 14回 外部から講師
- 15回 ディスカッションー経営学IIから学んだこと

成績評価の方法 /Assessment Method

定期テスト:80%, レポート:20% (講義終了時に授業中のキーワードを書いてもらう)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

時事問題に興味を持ってもらいたい。そのためには新聞を毎日読んで、興味を持った記事をノートに記載してそれを提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法人、取締役会、日本的経営、終身雇用、就職、年功序列賃金、成果主義

経営戦略概論 【夜】

担当者名 寺田 真一郎 / Shinichiro Terada / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経営学の全体を概観する授業です。
本授業を受講するための、事前の知識は全く必要ありません。

授業では、経営学の主な分野を個々に取り上げます。
授業の進め方は、テキストまたはビデオや新聞記事を元に、ビジネス事例や経営学の主な理論・フレームワークをみんなでディスカッションし理解していきます。その結果、経営学とはどんな学問か？会社とは何か？を考えることができます。

なお、毎回、受講生に発表をお願いする予定です。また、授業の資料は英語のものを使う場合があります。

The aim of the "Business Strategy" course is to help students understand the overview of business studies, such as competitive strategy, marketing, innovation, organization management, accounting, and finance.

The class is not a one-way lectures but rather discussions applying frameworks to business cases.
You do not have to be fluent in Japanese. Many of the materials in the course are written in English. So, you can understand them and communicate with other students in English, too.

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、資料(ビデオ、記事等)を利用します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1) イントロダクション

2) 競争戦略 1

3) 競争戦略 2

4) マーケティング 1

5) マーケティング 2

6) イノベーション 1

7) イノベーション 2

8) 中間まとめ

9) 経営組織 1

10) 経営組織 2

11) 会計・ファイナンス 1

12) 会計・ファイナンス 2

13) 会計・ファイナンス 3

14) 発表 1

15) 発表 2、まとめ

(暫定版です。初回の講義で、確定したものを説明します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への参加 (50%)
- ・ 各種発表/レポート (50%)

経営戦略概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表、レポートについては、事前の準備が必要です。
講義で紹介した文献やビデオにより、事後学習を進めることができます。

履修上の注意 /Remarks

発表はプレゼンテーションスライドを利用します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく授業を進めましょう。

キーワード /Keywords

Business, Strategy, Marketing, Accounting, Finance, Innovation, organization

Japanese Affairs 【夜】

担当者名 /Instructor
 フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course provides an introduction to contemporary Japanese society. We will critically evaluate both popular and scholarly theories about Japan with special attention paid to key themes in Japanese society. Topics covered will include Japanese identity, Japan and Asia, Japan and the West, religion, ethnicity, gender, sexuality, education, and politics. Throughout the course we will investigate some recurrent ideas in Japanese society as well as the ways in which cultural differences are perceived, depicted, and theorized.

By the end of this course students will have a clear understanding of Japan and Japanese culture. Students will be able to think critically about Japan's relationship with the West and Asia and students will be given the opportunity to discuss issues related to Japanese society.

教科書 /Textbooks

The instructor will provide materials each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will provide materials each week.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction to the course.
- 2 回 Being 'Japanese'
- 3 回 Being 'Foreign'
- 4 回 Japan and the West
- 5 回 Japan and Asia
- 6 回 Yakuza
- 7 回 Gender and Japan
- 8 回 Human Trafficking
- 9 回 Sexuality
- 1 0 回 Ethnicity
- 1 1 回 Disability
- 1 2 回 Folklore and Fairy tales
- 1 3 回 Anime
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 In Class Assessment

成績評価の方法 /Assessment Method

In Class Assessment: 20%
 Task Based Course Work: 30%
 Final Report: 25%
 In Class Assessment: 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please come prepared every week by reading the material the instructor provides.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済概論 【夜】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P又はG S P履修対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

International Political Economy (IPE) combines many academic fields, especially Political Science, Economics, History, and Sociology. The purpose of the course is to introduce the basic concepts of IPE and deepen students' understanding through discussion of actual case studies. The course will follow a workshop format and include seminars, videos and student projects.

教科書 /Textbooks

Instructor provided materials; including videos, worksheets and news articles.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

References with include electronic dictionaries and internet use.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Introduction to International Political Economy (IPE)
- 第 2 回: Case Study 1 - and discussion in class
- 第 3 回: Case Study 2 - and discussion in class
- 第 4 回: Case Study 3 - and discussion in class
- 第 5 回: Student Presentations (1)
- 第 6 回: Case Study 4 - and discussion in class
- 第 7 回: Case Study 5 - and discussion in class
- 第 8 回: Case Study 6 - and discussion in class
- 第 9 回: Case Study 7 - and discussion in class
- 第 1 0 回: Student Presentations (2)
- 第 1 1 回: Case Study 8 - and discussion in class
- 第 1 2 回: Case Study 9 - and discussion in class
- 第 1 3 回: Case Study 10 - and discussion in class
- 第 1 4 回: Case Study 11 - and discussion in class
- 第 1 5 回: Student Presentations (3)

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be assessed on a combination of class participation, class presentations and homework assignments.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend to the Moodle site for this course and complete any homework as assigned by the teacher.

履修上の注意 /Remarks

The medium of instruction for this course is English. All materials will be presented in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please feel free to ask questions in class or contact me by email.

キーワード /Keywords

英語 国際関係 政治学 国際政治経済

Asian International Relations 【夜】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will explore various aspects of East Asian international relations with a particular focus on Japanese foreign policy. Through the prism of Japanese foreign policy students will develop a better understanding of the dynamics of international relations in East Asia, as well as of U.S. policy towards the region. Also, students are expected to upgrade their command of the English language by reading English materials, and debating in English. In this seminar there is a substantial amount of reading, and emphasis is placed on active participation in class discussion.

教科書 /Textbooks

Text materials for use in class will be presented.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Richard J. Samuels, Securing Japan: Tokyo's Grand Strategy and the Future of East Asia, Ithaca: Cornell University Press, 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction
 2. Understanding Japan's Grand Strategy
 3. Historical Context(1): Japan's Grand Strategies
 4. Historical Context(2): Baking the Pacifist Loaf
 5. Identity Politics and Japan's Foreign Policy
 6. Japan, the United States, and China in the 21 Century: A Historian Perspective
 7. History in a Box: UNESCO and the Framing of Japan's Meiji Era
 8. Addressing Japan's Comfort Women' Issue From an Academic Standpoint
 9. Balancing China and the Realist Road to War
 10. Showa History, Rising Nationalism and Japanese Political Development
 11. What is North Korea's Nuclear Strategy?
 12. What is the Trans-Pacific Partnership?
 13. The Japan Problem and the Okinawa Problem
 14. Korea and the New Regional Paradigm
 15. Chimerica in Decline? , Class Summary
- (The above class schedules may be changed as needed)

成績評価の方法 /Assessment Method

Overall Participation 10%
Reading Summaries 30%
Presentation 30%
Leading Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

All students are required to hand in 'reading summary' (1/2~1 page) in every single class. In order to encourage students to actively participate in a knowledgeable way, I require that all readings be done before class. You will be expected to take notes on the readings, a reading summary of which you must submit to me electronically by 9 A.M. before each class.

履修上の注意 /Remarks

All students are urged to prepare the presentations and discuss it during class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

It is important to be able to discuss the readings and topics in depth, raise interesting questions, and engage with your fellow students. It is impossible to participate if you do not attend, although consideration will be made for excused absences. You are expected to actively contribute to the discussion.

キーワード /Keywords

International Relations, Region, Nation States, Security, Interest, Strategy, Power, History, Foreign Policy, Identity

グループ演習 (デイベート・ 討論) 【夜】

担当者名 /Instructor 口ドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

In this course, students will be able to prepare discussions, facts, and arguments to debate about global issues taking into consideration the Japanese reality and their home country to be able to make comparisons across cultures.
In class, students will work in pairs and small groups to prepare the topics of discussion. Therefore, the students will have the opportunity to develop arguments, facts, opinions and recommendations that they will voice during their debates. They will be able to practice listening, speaking, writing and reading skills in the classroom.
Students will discuss and debate about 14 topics during the course and use the textbook as a reference to prepare their arguments for the following class. They are encouraged to prepare the topics for discussion and debate listed in the textbook and resources recommended to allow a week of preparation.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debater's Handbook (19th Edition).
18th Edition of the book is also fine.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Please review the following textbook and source available online:
25 Debates for English Learners and Teachers with Tests and Activities by George Sandford. Parski Publishing.
<https://www.procon.org/debate-topics.php>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Orientation, course introduction and initial discussions
Class 2: Animal rights
Class 3: Monarchy, abolition of
Class 4: Voting age, reduction of
Class 5: Commonwealth, abolition of the
Class 6: United States of Europe
Class 7: Child labor can be justified
Class 8: Fairtrade, we should not support
Class 9: Abortion on demand
Class 10: Immigration, limitation of
Class 11: Privacy of public figures
Class 12: Private schools versus public schools
Class 13: Capital punishment
Class 14: Organs, legal sale of
Class 15: Should Britain leave the EU?

成績評価の方法 /Assessment Method

Students will be evaluated weekly based on the following aspects:
Preparations: 20%
Discussion and Debate: 20%
Presentation: 20%
Teamwork: 20%
Participation: 20%
Please be always on time and do not miss more than 5 classes to obtain the course's credits

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please study and review the book's section before coming to class and be prepared to discuss and debate about the topics chosen.

グループ演習 (デイベート・ 討論) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

Students are expected to attend and prepare for class. Teamwork is also an important aspect of the course; therefore, you need to have a group balance during your discussions, presentations and debates.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to facilitating this course because students will be able to put into practice their critical thinking, discussion, presentation and analytical skills. This is a great opportunity for the Global Education Program (GEP) students to share their knowledge.

キーワード /Keywords

Preparation, Discussion, Presentation, Debate, Global, Issues.

グループ演習 (デイバート・ 討論) 【夜】

担当者名 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

カルロス・ゴーン氏は、ルノー、日産自動車、三菱自動車工業の株式会社を統括する「ルノー・日産・三菱アライアンス」の社長兼最高経営責任者(CEO)を務めていたが、2018年11月に東京地検特捜部に金融商品取引法違反の容疑で逮捕され、その後解任された。保釈中の2019年12月に日本から密出国によりレバノンに逃亡し、2020年1月2日に国際刑事警察機構により国際手配書にて国際手配されている。この事件を理解するためには株式会社についての知識を身に付ける必要がある。

そこで、池上彰『会社のことよくわからないまま社会人になった人へ』(海竜社)を使って株式会社について全体像を理解する。その上で、第2に、TOTO、安川電機、ハローデーといった北九州市内の有名企業を教材として生きた株式会社の特徴を学ぶ。第3にこれらの企業の中のいくつかの人事担当の責任者から講義を受ける。これらの演習を通じて理論と実践に強い社会人になることを目指す。

教科書 /Textbooks

池上彰『会社のことよくわからないまま社会人になった人へ』海竜社、2019年、第3版、1500円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮本又郎、岡部桂史、平野恭平編著『1からの経営史』碩学舎、2014年、2400円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 カルロス・ゴーン氏はなぜ日本から国外逃亡したのか
- 第2回 会社の社会的役割ってなんだろう
- 第3回 今ある大企業はどのようにして生まれ、発展してきたのか
- 第4回 法人ってなんだろう
- 第5回 会社で一番偉いのは誰だろう
- 第6回 取締役会っていったいなんだろう
- 第7回 アメリカと日本、経営トップにどのような違いがあるのかな
- 第8回 日本的な経営って、どんな経営?
- 第9回 成果主義は、成果を上げたのかな
- 第10回 優れた経営者とはどんな人なのか
- 第11回 就職とはどういうことか
- 第12回 男女の雇用格差は本当になくなったのか
- 第13回 安川電機とはどんな会社なのか、ビデオ鑑賞後、意見交換会
- 第14回 TOTOとはどんな会社か一元社員と意見交換会
- 第15回 人事担当の本学卒業生と意見交換会

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義終了時に提出する簡単なレポート30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

池上彰『会社のことよくわからないまま社会人になった人へ』)を読んでくること。また授業後、同書で再確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

何事にも積極的に参加して、楽しんでもらいたい。デイバート・討論な経験がなくて苦手だという学生は今が変身のチャンスととらえて頑張ってもらいたい。新聞を毎日読んで、知識を増やしてもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループ演習(デイバート討論)の受講生(含む留学生)には、毎週1回(30分間)面談の機会が与えられている。グループ演習の時間で分からなかったことや、もっと議論を交わしたい学生に答えたい。詳しくは講義の際に説明したい。

キーワード /Keywords

カルロスゴーン、日産自動車、株式会社、株式、利潤、配当、資本と経営の分離、株主総会、取締役会、CEO、COO、TOTO、安川電機、ハローデー、日本の経営、終身雇用、年功序列賃金

Global Business Seminar (中国) 【夜】

担当者名 /Instructor 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中華圏における貿易と直接投資の全体状況を把握した上、ユニークな在中外資系企業のケースを通して国際ビジネスの仕組みを学習していく。今まで学んできた経済・経営関係の知識や基礎的な分析技法をフルに生かし、日本語を使わず、中国語と英語を併用したセミナー（討論形式の授業）としていきたい。

教科書 /Textbooks

必要に応じて演習の最初に指定する
適宜プリント資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンバーの自己紹介、受講理由、問題意識の確認
- 第2回 本セミナーの過去の進行経験、報告スタイルの共有
- 第3～4回 中華圏、東アジア地域における経済一体化進行の様相
- 第5～8回 日系企業によるアジアビジネス展開の全体像、特色
- 第9～10回 特に中国大陸市場の特性、外資誘致の実績、特色
- 第11回 事例研究A：リコー
- 第12回 事例研究B：ダイキン工業
- 第13回 事例研究C：フォックスコン
- 第14回 事例研究D：華為技術
- 第15回 総合討議

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出実績 40% 演習報告の努力度・出来栄え 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料を事前指示するか、配布する
一部映像、動画資料を使用する予定で聴力、理解力を確かめる課題を課す

履修上の注意 /Remarks

レジメの事前作成・報告時の配布をすること
各回配布教材、資料の予習・復習をしっかりとしておくこと
アジアの主要言語を使用した演習の存在意義を理解してもらい、オープンマインドで参加してほしい
可能なら在学中における海外留学の機会を大事にもらい、本セミナーと関連づけて海外訪問、国際交流の生体験を語ってもらいたい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

先入観を持たずにもっと東アジアに関心を持ってもらいたい
忌憚なく必ず自分の考えを打ち明けてもらいたい！

キーワード /Keywords

グローバル化、多様性、保護主義、経営現地化

Global Business Seminar 【夜】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This seminar aims to provide opportunities to learn the current affairs of global business and economic trends through class discussions. The seminar utilizes a business economics textbook and promotes discussions about the concepts, frameworks, perspectives, and data of business related activities. Based on these foundations, students in this course will be able to grasp the issues of the global economy and business activities.

教科書 /Textbooks

The Economy, The CORE project. (<https://www.core-econ.org/project/core-the-economy/>)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Arthur O'Sullivan and Steven M. Sheffrin, (1998) Economics: Principles and Tools. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.
- N. Gregory Mankiw, (2001) Principles of economics. 2nd ed. Fort Worth, TX: Harcourt College Publishers.
- Joseph E. Stiglitz and Carl E. Walsh, (2002) Economics. 3rd ed. New York, NY: W.W. Norton.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1st week: Introduction
- 2nd week: The firm: Owners, managers, and employees 1
- 3rd week: The firm: Owners, managers, and employees 2
- 4th week: The firm and its customers 1
- 5th week: The firm and its customers 2
- 6th week: Supply and Demand: Price-taking and competitive markets 1
- 7th week: Supply and Demand: Price-taking and competitive markets 2
- 8th week: The labour market: Wages, profits, and unemployment 1
- 9th week: The labour market: Wages, profits, and unemployment 2
- 10th week: Intermission: Discussion on a real-world (business) issue
- 11th week: Banks, money, and the credit market 1
- 12th week: Banks, money, and the credit market 2
- 13th week: Rent-seeking, price-setting, and market dynamics 1
- 14th week: Rent-seeking, price-setting, and market dynamics 2
- 15th week: Final Quiz

成績評価の方法 /Assessment Method

Contribution to class discussion15%
Weekly assignments45%
Quiz40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Classes will be held once a week in seminar format, which includes in-class discussion based on the assigned readings. In addition to attending class regularly, preparing conscientiously for classes, and taking an active part in class discussions, there will be weekly assignments (homework) and a final quiz.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Have some fun with Business Economics

キーワード /Keywords

Business Economics; Business Climate; Economic Policy